読売新聞大阪版に掲載された記事

2017年12月6日　朝刊

ネット交流 夢語りタイ

天下茶屋中2 英語の授業

「新単語 覚えたくなる」

タブレット端末でタイの学校と交流する生徒たち（大阪市西成区で）

大阪市立天下茶屋中学校（西成区）の2年生たちが、英語の授業の一環として、タイの学校とインターネットのテレビ電話で交流を進めている。今夏には生徒の代表がタイを訪問して対面での交流も果たした。学校関係者は「海外への関心が高まり、日頃の学習にも良い影響が出ている」と語る。

（鈴木隆弘）

英語を担当する長濱好美教諭(39)が、生徒に英語や海外への関心を高めてもらおうと発案。タイに住む友人の協力で交流相手になる学校を探し、今年2月に始めた。

当初はバンコクの中高一貫校と交流を進め、現在はタイ中部アユタヤにある中高一貫校・チョムスランウパタム学校と定期的にやり取りを行っている。同校には日本語を学ぶクラスがあり、天下茶屋中との交流も英語と日本語で行う。

今月上旬は、「夢」をテーマに交流した。テレビモニターにタイの教室の様子が映し出されると、生徒たちの間から歓声が上がった。両校の生徒は「夢はプロサッカー選手になること」「米国に留学したい」などと発表し合い、その後は数人のグループに分かれて、タブレット端末を使って英語で会話した。その様子に、長濱教諭は「日本とタイの生徒たちは英会話のレベルが近く、気兼ねなく交流できている」と言う。

さらに会って交流しようと、PTAや地域から集まった寄付で渡航費用をまかない、今年8月に代表の生徒6人がタイを訪れた。アユタヤでチョムスランウパタム学校の生徒たちに会い、ホームステイもして友好を深めた。

交流を始めたことをきっかけに、生徒たちには英語を熱心に勉強するようになったり、生徒会などの活動に参加したりする積極性が表れているという。タイを訪問したメンバーの一人、山根茉唯さん(14)は「自分の言葉が相手に伝わることがうれしくて、また新しい単語を覚えたくなる」と笑顔を見せた。

天下茶屋中では、今後も1、2か月に1回のペースで交流を続け、来年もタイを訪問する計画だという。横田勝一郎校長(55)は「子どもたちが夢を持てるよう環境を整えていきたい」と話している。

大阪市教育センターによると、情報通信技術（ICT）を用いて海外と交流する学校が近年増えつつあるという。担当者は「国際理解や多文化共生への関心の高まりが背景にある。ICTを使えば、継続的に交流がしやすいという面もあるのではないか」と指摘した。